

第6回あいづ創生市民会議 会議要旨

【日時】 2015/09/30 18:30~20:40

【場所】 会津稽古堂 1F 多目的ホール

【市民会議 参加者】 出席 26名、欠席 16名

【会津若松市 参加者】企画調整課（6名）、関係各課課長 10名）

【日本経済研究所 参加者】社会インフラ本部（2名）

【配付資料】

- ・第6回あいづ創生市民会議 次第
 - ・第6回市民会議資料
-
-

【議事】

1. 開会（企画調整課）

2. 説明

① テーマ設定の背景について（企画調整課）

- ・WS形式は今回が最後となる予定。次回以降は、市民と市が協働し、議論することになる。これまで出されなかった意見を含め、活発に意見交換してほしい。

②プログラム内容等について説明（日本経済研究所 鈴木）

- ・WSキーワードについて：「ストップ人口減少」～生産年齢人口・交流人口の増加に向けた取組
⇒人口はその地域の活力を示すものの一つである。総数の増減をみることも大切だが、自然増減・社会増減で分けて考える必要がある。特に、社会増減については、その地域に住みたいという人が多ければ転入してくる。地域の人々自身がその場所に暮らしたいと思い、自らの地域に誇りを持つことが大事であり、そういう人が増えれば、共感する人が増えることとなり、人口が増加に転じる可能性が高くなる。小さい町であっても、たとえ交通機関が不便であっても、社会増加を達成している市町村は存在し、そうしたところは、市と市民とが一緒になって頑張っている姿勢が見られる。本日は「自分たちが何ができるか」ということをまず考えていただきたい。

3. WS（進行役：日本経済研究所）

テーマ：「ストップ人口減少」

① 各グループ発表（発表順）

i) ふくし分科会

- ・福祉は、まず人が増えることによって充実が図られるものである。したがって、まずは人が増えるための施策に取り組むことが重要であると考えた。
- ・人口増加のために住みやすい環境をつくり、新しい産業を興せる町を目指したい。
- ・高齢者の方々が健康寿命を伸ばし、元気で暮らせる町を目指したい。市の方には、ぜひ健康ポイント制を導入してもらいたい。
- ・子供を増やすために、ひとり親への経済的支援や婚活の充実を図ってほしい。
- ・生活環境をよくするため、地域内交通手段の充実や若い人を定住させるために専門学校を整備してほしい。
- ・農林業中心のコミュニティを作ることで人を呼んだり定着を促したりできるのではないかと考える。

ii) ひとつづくり分科会

- ・現状維持ではなく、少しでも人口が増えるようにという思いで話し合いを行った。
- ・まずは女性が子どもを産みやすく、子育てしやすく、かつ働きやすい環境を整えたい。
- ・現在、多くの商店が店じまいしてしまっており、若者が就労する場所が少ない。企業誘致を行うことも一つの手段ではないか。
- ・会津は観光のみどころがあるので、教育旅行の推進や農家や民家の民泊振興も有効であると考ええる。観光を通じた交流人口増加に向けた取り組みが必要。
- ・会津大学は県立であるので、県議会や県知事への働きかけによって総合大学になることも若者の選択肢が増え、人口増につながるのではないか。

iii) まちづくり分科会

- ・訪問者は会津らしいところに居住したいと考えている。そういった考えにマッチした空家はあるのに、借りることが難しい。また滞在コストも高い。このような受け入れ体制では、社会増とすることは困難ではないか。周りには、会津でゲストハウスを運営したい学生がいるのにもかかわらず、物件が提供できていない状態である。
- ・ひとを増やすために居住環境や受け入れ環境を整えることは重要であると考えた。したがって、空家の問題は早急に解決に向け取組んでもらいたい。
- ・その他、重要であるのは大きくわけて「景観」「人」に関する取り組みに重点を置くことが重要であると考えた。空家を含め古い町並みは景観として残すべきである。まず、町に清潔感があることは人を呼びこむうえで重要な要素であると考えた。
- ・また、そこにいる人が訪問してくれる人を温かく迎える気持ちを持つことが大事である。

iv) きょうどう分科会

- ・人口増には、「地域コミュニティ」「子育てしやすいまち」「地域産業の活性化」が重要であると考えた。
- ・「地域コミュニティ」については地域に人材のばらつきがあり、核となる人も不足している。したがって、地域内でお互いに支え合うネットワークを作ることが大切である。その一つの対策として、市職員が期限付きで地域のコミュニティづくりに積極的に関与することはどうか。
- ・「子育てしやすいまち」については、男性の残業時間を減らしたり、有給を取りやすくしたりすることで子育ての男女共同参画を推進する。子供を地域で育てるという意識をもつことが重要である。
- ・「地域産業の活性化」については地場産業の価値をあげることで、地産地消を進めること、情報発信が考えられる。
- ・小さな歯車を回すことで、市全体で大きな利益を得られるように一つずつ取組んでいきたいと考える。

v) しごとづくり分科会

- ・年代別に人口を増加させるための方策を検討した。一番増えてほしいのは若者：22-30代と子育て世代：30-60代と設定した。ここが増えなければ、他の年代が増えないと考えるからである。
- ・22-30代の若者は、1度地域外に出て、色々なものを得てから戻ってくるようにしていきたい。そして、会津に逆輸入（戻ってきてもらい）して、起業をしてもらうなど新たな仕事が展開されることで雇用が増え、それがループするような形を作っていきたいと考える。

④ 全体講評（進行役）

・多方面からあらゆる意見が活発に交された。今後は市と市民が同じ地域にいるものとして、一丸となって社会増に向けて取り組んでいくことが重要と感じられた。その際には、各分科会が協力・連携することが大事である。

・「ふくし分科会」は、町が豊かになることで福祉が充実するという発想が素晴らしい。どういった背景で市が施策に取り組むか、これを議論したうえで福祉の視点からの人口増施策を盛り込み充実させていく必要がある。

・「ひとづくり分科会」は、どういう人を作るか、ということも重要であるが、産業振興と連動した人づくり（人材教育）を行っていきべきであるという考え方に注目した。人を受け入れる際には、会津のアイデンティティの意識を共有できることが重要であり、そうした人が集まるように取り組むことが求められる。

・「まちづくり分科会」では、空家について具体の指摘がでたが、これに関しては早急に、改善に向け取り組むべき点である。住みたい人が住めない現実があると分かった以上、すぐに行動すべきである。空家については、所有者と市の協力が必要であり、取り壊すよりもそこに住んでもらえるための関係者全員がハッピーな世界をどのように作っていくかが大事である。

・「きょうどう分科会」は、青年会や婦人会といった既存の地域コミュニティの活性化の重要性を指摘している。「小さな歯車で大きな利益を得る」というのは、まさに協働の精神であり、小さな活動が少しずつ重なり合っていくと考えている点が重要である。

・「しごとづくり分科会」は、年代別でしごとづくりを考えた点が良い。ただ、子育て世代：30 - 60代が増えると子供が増えると短絡的に考えるのは気を付けるべきである。結婚をしないという選択肢も考えられるからである。つまり、仕事づくりに加えて、他の分野の充実も図られるべきである。

・多様な世代が住みやすいまちづくりを考えるとなおよいと考える。

3. 事務連絡（企画調整課）

- ・庁舎検討懇談会、総合計画審議会のメンバーを公表
- ・次回の市民会議は10月28日（水）会津稽古堂で実施

4. 閉会（企画調整課）

以上

（別紙）

【市民会議 参加状況】

分科会名	参加者
ふくし	大竹さん、葛岡さん、栗城さん、馬場さん、宗像さん、吉原さん
ひとづくり	荒川さん、君さん、湯田さん、渡部さん
しごとづくり	岩渕さん、大須賀さん、佐々木さん、鈴木さん、関さん、山内さん
まちづくり	折笠さん、高橋さん、福西さん、藤井さん
きょうどう	小山さん、鈴木さん、高橋さん、永田さん、中村さん、松嶋さん
出席者合計	26名

分科会名	欠席者
ふくし	渡部さん、渡邊さん
ひとづくり	高林さん、長谷川さん、柁屋さん、山口さん、遊佐さん
しごとづくり	古川さん、室井さん
まちづくり	小椋さん、栗城さん、佐藤さん、高階さん、馬場さん
きょうどう	阿久津さん、岡野さん
合計	16名